

福井市・岐阜市・奈良市 3市社協合同研修会を実施

令和6年
10月25日(金)
10月26日(土)



災害時における相互支援 体制の在り方とICT活用の メリットを考える

福井市・岐阜市・奈良市の社協で締結している「災害時等に関する相互支援に関する協定」第9条に基づき、令和6年10月25日(金)・26日(土)に奈良市にて、三市社協合同研修会を実施いたしました。4回目となる本研修は、初の2日間開催となり、災害時における相互支援体制の在り方やICT活用について検討しました。

1日目

天平みはらし館 宮跡展望室 会議室

1日目の前半には、各社協の代表者より災害に備えて現在行っている取り組み・想定と、平時における重点的な取り組みについての共有を行うとともに、能登半島における地震・豪雨災害の被害を受けた輪島市への支援を経験した、本会職員によるレポート報告なども交えて、災害時における相互支援や平時業務の継続の難しさ等について意見交換を行いました。

後半には、被災時の法人運営・個別支援・地域福祉活動支援といった3つのテーマ別グループに分かれて、情報共有や意見交換を行いました。その後、奈良県社会福祉協議会 主査 田中和博氏・松尾朝子氏による講義「奈良県内における相互支援体制の在り方とICTの活用」を受けて、相互支援の在り方を改めて考えるとともに、ICT活用についての認識を深めました。



2日目

南福祉センター



近年、災害ボランティアセンターではICT(kintone)の活用が一般的になりつつあります。そこで研修2日目は、「災害ボランティアセンターにおけるICT活用体験会」を実施しました。

体験会前半では、奈良市で実際に行われるICTを活用した災害VC設置・運営訓練の動きを共有しました。体験会後半は、参加者を3つのグループに分け、奈良市の災害ボランティアセンター用kintoneアプリを操作し、ニーズの入力を行いました。その後、各グループでICT活用のさらなる可能性について意見交換を行い、考察を深めました。

今後も各市社協が連携し、災害に強い地域づくりを推進していきます。